



コルネリオ会

(防衛関係キリスト者の会)

ニュースレターNo. 134

2013年12月



20年ぶりの沖縄の印象について

コルネリオ会 会員 中村誠一

当時は那覇基地（1年）と久米島分屯基地（3年）で勤務していたのですが、久米島ホーリネス教会（今はバプテスト連盟）がキリスト教に初めて触れた教会でした。

出張のたびに、本島ではインマヌエル教団の糸満教会と東風平教会に行きましたが、糸満教会には当時、数名の航空自衛官の方がおられました。転勤でしょうか今では在籍していないとのこと。今、私と妻は東風平（こちんだ）教会に御世話になっています。知り合いの信者の方はお元気で、信者数等もそんなに変わりはなく、なつかしい！といった感じです。牧会者の方の平均年齢が高く、どこの教会でも若手の牧師様が少ないとのことでした。沖縄のキリスト教人口の割合は本土より多いのですが、増えてはいないようです。昔からの先祖崇拜は規模こそ小さくなってはいるようですが、やはり、長男、その嫁にとっては、今でも大変な（大切な）行事とのこと。

先日、東風平教会で心温まる体験をしましたので、紹介します。

小学3年生の男の子が「信仰告白」をし、皆から祝福を受けたのです。母親は教会員ですが、ご主人は未信者（航空自衛官）です。以下のような親子の会話があったそうです。

母：あなた、罪って何か、知っているの？

子：知っているよ。でも、お母さんには言えない。

母：紙に書ける？

子：いいよ。

母：じゃ紙に自分の罪を書いて、イエス様にお話ししてね。

と言って紙1枚に何か書いていたそうです。

教会員は、牧師から報告を受けました。（何と書かれていたか？自分の親にも言えないこと、当然、秘密です。）私たちは拍手で彼を祝福しました。私の隣に座っていた本人も、感激して涙ぐんでいました。偶然、その親子は私の知り合いでしたので、大いに祝福しました。今年の12月に受洗予定です。

思えば、私自身も数十年前、自分の子供たちが若いうちに創造主を云々の御言葉に沿い、教会に連れて行ったのですが、未だに時至らず、複雑な思いをしています。彼の将来が神様の恵みに溢れ、コルネリオ会に入会するよう導かれるように祈るものです。



教会にて

日本長老教会の修養会に参加して

コルネリオ会 準会員 桧原 菜都子

私は 2013 年 8 月 15 日(木)～18 日(日)の間、日本長老教会の創立 20 周年記念全国修養会に参加してまいりました。場所は山梨県の富士五湖の一つである西湖でした。

今回の修養会では、全体礼拝が 1 日一回ずつ 3 回あり、早天礼拝が 2 日目と 3 日目の朝、また 2 日目には分科会が 3 回ありました。私は 1 回目の分科会には“誰でも導けるシンプル聖書研究”と、2 回目は“超高齢社会と教会”、3 回目は、“弟子養育の祝福”に出席しました。

2 回目の分科会「超高齢社会と教会」では、教会の内外で生じている「福祉ニーズに教会はどう向き合えば良いのであろうか」というテーマを事例紹介しながら地域社会が取り組む福祉実践へのステップを考えました。

私も「この超高齢社会の中で、教会が地域に向けて

出来ることは何であろうか」と考えるチャンスが与えられて、「これは教会の敷地が狭いと言っている場合ではない」とまず導かれました。敷地の狭い私の教会では、まず“婦人の集い”の集会に若い方のみでなく高齢者も積極的に誘いする、ということを考えてみるようにと導かれました。

今回の全国修養会では“福音”と“神の愛”に恵まれました。私たちをこんなにも愛して下さっている神が日本長老教会の兄弟・姉妹を一つに集めて下さり、イエス・キリストの十字架と復活を語って下さいました。この永遠のいのちを喜び、神が与えて下さったこの身と霊で、福音をこの地に於いて聖霊に満たされて証しし、イエス・キリストと共に歩んでまいりたいと思いました。ありがとうございました。

松原湖聖会に参加して

コルネリオ会会長 石川信隆

今年も 8 月 10 日—12 日の間心のふるさと松原湖聖会に参加することができました。講師は、元横須賀中央教会の岡村又男先生と東京基督教大学教授の岡村直樹先生でしたが、私は部分参加でしたので、岡村直樹先生のメッセージを 3 回聴講することができました。1 回目は、主日礼拝の中で、神様は私たちに何を約束してくださっていますか、という質問から始まりました。それは、「インマヌエル＝主がともに居てくださる」ことです。そのためには「主に救われた恵みをいつも思い出しなさい。人間は忘れやすいので、まず朝起きて、主の約束を思い出しなさい。詩篇 103：2「主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな」のように、まず主に感謝を捧げて一日を始めなさい」ということでした。

2 回目は、「楽しい神学講座」の中で、主の御心を知るには、どうしたらよいか。まず①「聖書に基づいているか」②「祈りと礼拝を通して聖霊に導かれたか」③「教会の賛成を得ているか」の 3 つが満足して初め

て主のみこころが叶うのだと教えられました。今回、私たちは土地購入というチャレンジをいたしました。教会員の賛成が得られるように、また教団理事会の承認が得られるようにと、この世的な手続きにこだわった気がしました。本当にもっと聖書のみことばに頼り、祈りと礼拝を通して聖霊に導かれる必要を感じました。

3 回目は「試練」について学びました。ヤコブ 1：2「与えられた試練をこの上もない喜びとしなさい」とありますが、「ガンを宣告された時でも、この上もない喜びと感ぜられるのでしょうか」と岡村先生にあとで質問しました。そうしたら、「人間だから泣いても構わない。しかし私たちには天国への希望がある、また癒されれば、その体験を後世の人に証しとして伝えることができるという喜びがあるはずだ」とおっしゃられました。

午後のフリータイムの時間は、白駒池をハイキングし、八峰温泉につかって、帰って参りました。

弟子訓練に感謝

コルネリオ会 副会長 今市 宗雄

3年余りに亘る礼拝前の弟子訓練は、私にとりまして家庭集会開催への準備期間であり福音宣教への船出の原動力と成りました。

振り返りますと本訓練は、初め関心をもって参加しましたものの、テキストが米語翻訳であり各質問も真意が掴みにくい所もあって学びに中だれを生じました。しかしながら、「引き続きやりましょう」との兄弟姉妹の決意に励まされながら、いよいよそのテーマも“地域教会の家族としての心構え”から“教会の使命に参加する”そして“大宣教命令”へと展開して行きました。

一方学習態度も、指導の内容が聖書箇所筆者の記述意図の大掴み方法にも登場人物の細かな心の動きにまで目配りを及ぼす頃には、学び当日まで聖書を繰り返し読むようになりました。なお使徒の働き第十章では、ペテロへの異邦人初宣教啓示のためカイザリアのイタリア百人隊長コルネリオを用いられた出来事は、防衛関係クリスチャンのコルネリオ会員として今更ながら他人事の様子に素通りを許されるものでは有りませんでした。

この間に培われましたものは、学びを日常生活に適用する即ち主のみこころに忠実に従うことを最も自覚

させられました。それは、同じ目線で指導される大喜多正洋牧師と兄弟姉妹の証が神からの恵みを確かなものとされたのでした。

この度は、主に準備された人が必ず私共の団地にも居られるとの確信の下、セカンドハウスを除く300戸に家庭集会案内トラクトを祈りつつ一軒ずつ配布しました。その祈りは、集う方を与えてくださいではなく、私を砕き茨を除き、そして忍耐強くあってイエス・キリストの弟子として隣人の足を洗う者と成らしめてくださいでした。結果的には、会の当日に集われた未信者1名を含む8名の中には団地から一人も居られませんが、今回学ばされましたことは、宣教が如何に困難であるかを知ることにより主は私達信徒一人一人をどんなにか愛しておられるかを身に染みて思わされたことです。また、家内も持て成しが大事と質素ながらも気を配ってくれましたが、本日（礼拝中の証し時）は、尾山謙仁牧師夫人の麻里子さんと広島の旧友を訪ねましたために欠席しました。

これからも本家庭集会は、C-BTEチームの兄弟姉妹ともども奉仕を続け、地域の方のみならず教会の姉妹の未信者であられる御主人方をもこの輪に加えて頂ける様に皆様と共に祈り続けたいと思っています。

アルゼンチン宣教（その1）

コルネリオ会 会員 圓林 栄喜

1 はじめに

アルゼンチンで在原繁宣教師が奉仕をはじめられて四半世紀がすぎています。神様の招きに導かれ、奥様の津紀子宣教師及びご家族とアルゼンチンの奥地ミシオネス州に渡り、様々な体験をしてこられた在原宣教師の働きを振り返り、第1回目は「アルゼンチン・ミシオネスについて」、2回目は「宣教準備期間の体験について」、3回目は「アルゼンチンでの宣教活動」という3回シリーズで報告したいと考えています。

2 アルゼンチン・ミシオネスについて

(1) アルゼンチンについて

地球の反対側に日本の8倍の広大な国土（278万 Km²、世界8位）を持つ国がアルゼンチンです。隣国ブラジル同様、世界中の民族、人種が集まり、肥沃な大地、イグアスの大瀑布、ロス・グラシアレスの氷河等の自然遺産、グアラニーのイエズス会伝道所群等の文化遺産を有する人口は約4千100万人（世界32位）の国です。

1880年ころから小麦や牛肉のヨーロッパ向けの輸出が盛んになり、国の経済成長に伴い第1

次世界大戦の頃には350万人もの移民を受け入れた移民の国です。日本からもブラジルほどではありませんが移民として移住し約35000人の日系アルゼンチン人が暮らしています。沖縄からの移住者が多く、園芸、クリーニング業を営む方が多いそうです。

(2) ミシオネスについて

ミシオネス州はアルゼンチンの北東部に位置し、パラグアイとブラジルの間に靴下のような形状で飛び出した州です。東西約200km、南北約300km、日本の四国と同じくらいの面積です。州都はポサーダス。

パラグアイとブラジルとの3国国境付近は、イグアスの滝や1986年のイギリス映画でカンヌ映画祭グランプリ、アカデミー撮影賞等を受賞した『ミッション』の舞台にもなった場所です。

1600年代、先住民グアラニー族への伝道活動の為、イエズス会の宣教師たちがこの地域に伝道所を建設しました。その後、パラグアイとアルゼンチンの領有権争いが続きますが1876年に和平協定が結ばれ、パラグアイはミシオネスの領有権を放棄します。一方、アルゼンチンは未開墾地の人口増加のためヨーロッパから移民を受け入れます。ミシオネスにも、イタリア、ドイツ、スペイン、ポーランド、ウクライナ等多くの移民が入植しました。

日本人もこの地域にわずかですが入植していたようですが、太平洋戦争後は日本政府とアルゼンチン政府との協定により1959年、ここミシオネス州に移住地が設立されています。

30年ほど前までは、カトリック教徒が9割を占めていると言われていましたが、1983年にリバイバルが与えられて以来、この国の「プロテスタント信者」は爆発的な増加を見せており、カトリックはあまりの信徒の流出に危機感を覚えている状態だそうです。

「プロテスタント信徒は4割を超えているのではないか?」、「ミシオネス州はすでに5割の民がプロテスタントではないか」と言われるほど教会が成長しているとのことでした。今回は在原宣教

師がこのアルゼンチン宣教に導かれるまでの経緯を主に紹介します。

(次回に続く)



ミシオネス州の場所

アンケートにご協力ください。

コルネリオ会事務局

主の御名を賛美申し上げます。いつもコルネリオ会のニュースレターをお読みくださり、誠に有難うございます。皆様の長きに亘る温かいご支援とご理解に心から感謝申し上げます。

さて、今後のニュースレターの発行と送付の参考にさせていただくためにアンケートの葉書を同封いたしました。ご多忙中とは存じますがご記入の上、ご返送いただければ幸いです。

また、新たな会員の紹介も随時受け付けております。

献金感謝 (2013. 8. 1-2013. 11. 30)

いつもコルネリオ会を覚えていただき感謝致します。石川信隆、花井米男、河野行秀、矢田部稔・和子、中野久永、今井健次・長橋和彦、今市宗雄・敬子、玉井佐源太、谷岡博志、滝口巖太郎、山下和雄、石井克直、吉田靖、木下真由美

AMCF 世界大会:2014年11月30日-12月6日 ケープタウン開催のためにお祈りください。

(編集子)

2013年8月16日、コルネリオ会名誉会長の今井健次先生が天に召されました。これまでの今井先生のコルネリオ会への様々なご支援とお働きを感謝申し上げます。ご家族の上に深い慰めがありますようにお祈りいたします。